平成30年度 弘前市総合計画審議会議事概要 (第9回)			
日 時	平成31年1月25日 (金) 18時00分～19時30分		
場 所	弘前市役所3階 防災会議室	傍聴者	0人
出席者	委員 (14人)	森会長、生島委員、村松委員、高島委員、阿部委員、藤田委員、清野(眞)委員、前田委員、北村委員、山形委員、福士委員、一戸委員、青山委員、三上委員	
	事務局 (6人)	企画部長、企画課長、企画課主幹、企画課総括主査、企画課主査、企画課主事	
	その他		
会 議 概 要			
1 開会			
2 議事			
(1) 弘前市総合計画 (案) について			
○主な意見等の内容は以下のとおり。(・は委員発言、⇒は事務局発言)			
【パブリックコメントへの回答案について】			
<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 p 5 「弘前市芸術文化施設について」で「現在進行形のアート、土地に根差したアートを発信し、世界を感じる芸術に触れることで市民生活の一層の充実」とあるが、具体的には何の充実を図るのか。もう少し具体的に説明するとわかりやすいのではないかと。 ⇒色々な活動が実施されることや、施設があることで色々な機会に触れることができるなど様々な意味を含んでいる。もう少し具体的な記述にできないか担当課と検討する。 ・資料1 p 4 「子どもたちが図書に興味関心を持ち、手に取りやすいように工夫し、児童生徒が読書や学習しやすい環境の整備に取り組んでおります。」とあるが、どういう状況にあるのかを調査し、その結果をもとに推進していく、というように具体的な回答をしたほうがよいのではないかと。データに基づいた推進策が必要ではないかと。 ⇒どれだけ学校で図書が貸出されているのか状況を把握する必要があると考えるので、提案があったことを教育委員会とも情報共有する。学校の図書館に、市立図書館の司書が訪問し、図書の配置や生徒が本を手に取りやすいような工夫などを指導している例もあるので、そういった取組も加えた形で回答案を検討したい。 			
【弘前市総合計画 (素案) からの修正箇所について】			
<ul style="list-style-type: none"> ・資料3 p 108に「ひとり親家庭の母等」と記述があるが、あえて「母等」とした理由は何か。父の場合などもありうるのでは？ 			

また、p 1 4 1の「フィルムコミッションなどを実施し」という表現について、「フィルムコミッション」は「映画撮影などを支援する組織・機関」であるので、単体で表記するのは間違った使い方である。

⇒「ひとり親家庭の母等」は、誤解を招かないよう表現を再度確認し修正する。

「フィルムコミッション」については、「フィルムコミッション『事業』などを実施し」と修正することとしており、フィルムコミッション事業についても資料編の用語解説で、説明することとしている。

- ・資料3 p 1 6 0「施策2）交通安全対策の推進」の施策成果指標に「全29校」と訂正されているが、市内の全小学校の数を表しているのか。なぜ小学校数が訂正されたのか。

次の意見は、市で実施している色々な事業を広報などでしっかりと市民に周知してほしい。スポーツ少年団が関係するスキー大会やサッカー大会など多数実施されているが、スポーツ少年団に入っていないとそういった情報が入手できず、大会に参加できないという声を聞いた。スポーツだけでなく芸術も含めて出たいけどそういった組織に所属していないと出られない、どこに連絡すればよいかわからないという市民もいるので、総合計画に書き込む必要はないが、市の事業を進める際には各課がしっかりと広報するように伝えてほしい。

⇒資料3 p 1 6 0「施策2）交通安全対策の推進」の施策成果指標に「全29校」については、「登下校時の児童見守り組織を必要とする市立小学校」の数を示しており、実際に市内には35校の小学校がある。現在の表記だと、市内の小学校が全29校と捉えられかねない表現となっているので、見直したい。

事業の周知については、委員の指摘の通りと認識しているので、市民への発信と共に、庁内での情報共有にも努める。

- ・資料3 p 1 6 1「施策2）交通安全対策の推進」の取組内容に「歩道の新設、交差点・路側帯のカラー舗装等」と具体的に記載するのであれば、PTAが主体となって歩道の除雪を実施しているところもあるので、冬場の歩道の確保についても掲載できないか。

⇒そういった文言を追記できないか、担当課と協議したい。

- ・資料3 p 2 7に「市民の暮らしや産業活動を支えるまちづくりの基盤であり」とあるが、「まちづくり」には様々な定義があり、「住民・市民による地域における価値の創造・発信する活動」といった意味もあるため、「産業活動」が入ってくると言葉の使い方によって違和感を覚える方もいるかもしれない。例えば、「市民の暮らしや産業活動を営むための基盤であり」で意味が損なわれないのであればその方がよいのでは。再検討していただきたいが、場合によってはこのままでもよいと思う。

⇒「まちづくり」の用語の使い方については、他市町村の事例なども含め検討させていただく。

・資料3 p 1 4 1 「施策1) 観光資源の魅力の強化」の取組内容に「りんご、食、城下町の街並みなど」とあるが、りんごは食に含まれるのではないか。

次に、資料3 p 1 6 1 「施策2) 交通安全対策の推進」では小学生の交通安全教育はなされているが、運転手の教室は実施しないのか。徹底しないと交通事故というのはなくなるのではないか。

次に、資料3 p 5 6 「施策4) 学力の向上と時代に対応する教育の推進」のアンダーアチーバーについて、アンダーアチーバーが専門的な用語ということでわかりやすく変えたとのことだが、教育委員会があえてアンダーアチーバーの言葉を使ったのには訳があるはずである。言葉が難しいことを理由になくしたのであれば、解説用語を入れるなどして対応すればよいのではないか。

⇒りんごについては検討させていただく。

次に、運転手のマナーについては警察も関係してくるので、市と警察で連携を図っていきたい。

アンダーアチーバーは、用語解説を掲載し使用していたが、それでも難しい言葉ということで、今回変更させていただいた。市民に分かりやすいことが大前提ではあるが、教育関係者などにはなじみがある言葉ということで、アンダーアチーバーを使うか使わないかということには賛否両論あると認識しているが、やはり市民に分かりやすいように教育委員会で考えて、今回はアンダーアチーバーを使わないこととした。

・それであればなぜ教育委員会は当初アンダーアチーバーを用いたのか。あえてその言葉を使った理由があるはずである。

・変更後の「児童生徒一人一人の学力の状況を把握し、」というのが変更前の「アンダーアチーバーを把握する」にあたっているが、それだと意味が違うのではないか。アンダーアチーバーを把握することは、遅れている子がなぜ遅れているのかを分析することであり、このように一般的な記述をしてしまうと意味が変わってくるのではないか。言い換えになっていないような気がする。

・アンダーアチーバーの意味は、「さまざまな原因があって知的水準から期待される力よりはるかに低い学力成績を示す者」と定義されており、これは単純な比較をしたときの言葉だが、アンダーアチーバーには「ちゃんとした能力を持っていながらさまざまな要因でその実力を発揮できていない者」という深い意味合いも含んでいるそうなので、そういう意味で使用するのであれば、「アンダーアチーバー」の方が活かされるのではないか。

⇒市としては、学力検査と知能検査の結果の両方から、能力はあるがそれが発揮できていない子どもがどういう状況にあってそうなのか等を分析して、そのような子どもにどのような教育をしていくかを考えるために、「アンダーアチーバーを把握する」という言葉を使っていたが、これが分かりづらいという意見もあったので、

教育委員会の中でこのように整理したが、もう一度検討させていただきたい。

- ・市では昨年3月に手話言語条例をつくったはずだが、計画のどこに出てくるのか。新しく制定した条例が新しい総合計画にどのように位置づけられるかということは大変重要なことである。

⇒政策の方向性「障がい者福祉の充実」に該当するが、手話について直接は明記されていないので健康福祉部に確認する。なお、市の記者会見で手話を取り入れるなど、条例に基づいた取り組みは実施している。

- ・資料3p161「施策2）交通安全対策の推進」について、交通整理員から見守り組織に移行しているがどのように進めているのか。

⇒交通整理員が定年を迎えた地区から順次廃止し、地域の見守り組織へ移行しており、市としては教育委員会で地域の方々へビブスなど交通安全の活動用品を提供したり、見守り組織の立ち上げを学校や地域と調整しながら進めている。

- ・1%システムを活用し交通安全対策を行っている地区も、今後は教育委員会で支援するのか？経費が負担になっているのでいい方向に進めばよいが。

⇒今後も地域の方には1%システムと教育委員会の支援を活用していただきたいと考えている。

(2) 答申案について

- 事務局からの説明に対し、委員からの意見等なし。

3 閉会

- 弘前市総合計画（案）については本会議をもって承認し、答申することとした。

なお、本会議における委員の意見・提言に対する対応については、後日、答申の前に市から森会長へ説明し、その承認の判断は森会長へ一任することとした。